

移住者や移住希望者にとっての 『津別の初めての友だち』になれたらいいな

都丸 雅子（とまる まさこ）さん

1974年群馬県渋川市生まれ。情報系企業の営業を経て2016年春、地域おこし協力隊として津別町に移住。ゲストハウス経営。

北海道に移住（U・I・Jターン）して、地域を巻き込む取り組みをする輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーのかとうけいこさん。33回目となる今回は、津別町にUターンし、道の駅あいおい勤務後、町内の空き家活用や移住相談、コミュニティアーカイブを残す活動などに取り組む都丸雅子さんにお話を聞きました。

移住したきっかけを教えてください

私は、首都圏で情報系企業の社員として、まちづくりに関わる仕事をしていました。その中で、地域の一人としてまちづくりに関わりたい思いが募りました。でも、組織に属していると異動があります。せっかく取り組むなら、深く関わりたいので自分の意志で暮ら

す場所を選び、そこに暮らして地域に入っていきたいなと漠然と考えるようになりました。そんな時に、地域おこし協力隊の制度を知り、東京で開催されていた北海道の地域おこし協力隊の説明会に参加してみました。30ぐらいの自治体ブースがあったので全部を回り、この人と一緒に仕事をしてみたいと思う自治体が2つ（その1つが津別町）あり、翌月に気になる町をリサーチするために2泊3日の弾丸ツアーを敢行しました。この時が初北海道でした。

下見ツアーを経て津別町に移住したのですね

はい。2015年の9月に地域おこし協力隊説明会に参加し、10月に津別町に来て、11月に採用試験を受けて、雪解けの3月末に引っ越してきて、2016年4月から地域おこし協力隊員として活動を開始しました。

地域おこし協力隊の3年間はどんな仕事をしていたか？

最初の2年間は、「道の駅あいおい」に所属し、道の駅のさまざまな仕事をしていました。豆腐作り工房、そば店、クマヤキ。モノ作りの現場は、いい経験になりました。飲食の経験もなかったので、そばの盛り付け、効率よくオペレーションすることなどを学びました。3年目は津別町空き家バンクと移住・定住の相談窓口「津別町移住・定住サポートデスク」の立ち上げを役場の方と一緒に担当しました。その時に会ったのが、エリアリノベーションで、ゲストハウス運営につながりました。

エリアリノベーションとは？

空き家を改装し、新たな価値を加える『リノベーション』。それが広がり、町ごと賑わいを取り戻すのが『エリアリノベーション』です。古い建物やその中にある昭和の暮らしを感じられる家具や家電、食器などに魅力を感じ価値を見出しました。これを活用することにより、まちづくりにも貢献できるかもしれないと考えたとわくわくしてきました。自分もこの取り組みに携わりたいと思いながらリノベーションに参加してきました。

ゲストハウスについてお聞かせください

2020年3月、築40年の空き家だった建物を活かしたゲストハウス「nanmo-nanmo（以下ナンモナンモと省略）」がオープンしました。建物は約半年かけて、のべ500人の方たちとともにリノベーションしました。地元出身の造形作家 おおにししげなり 大西重成さんの作品が館内にあり、ミニ美術館のようなエントランスになっています。おかげさまで、旅行者、リピーター、そして移住希望者などで賑わっています。ナンモナンモには町内の皆さんも親しみを持ってくれ、ふらっと立ち寄ってくれる人もいて、そこで出会った宿泊者と一緒にしゃべりしたりしてくれます。こういうフレンドリーな対応が喜ばれています。

津別町での暮らしはいかがですか？

私は移住して、道の駅がある相生地区^{あいおい}に暮らしました。今も相生地区が気に入っています。役場やナンモナンモがある中心部から20kmぐらい離れていて、自分では津別町の中での二地域居住と思っています。ナンモナンモでは、イベントを開催したり、お客様や地域の方と話がはずみいつもワイワイしています。一方、自宅は本当に驚くほど静かで、自分と向き合う時間を過ごしています。この2つの場所があることが自分にとって重要です。

これからはどんな活動を考えていますか？

2019年3月の協力隊卒業後、津別町空き家バンク、移住・定住サポートデスクを2025年1月まで担当させていただきます。今後は更に新しいことに挑戦してゲストハウスを核にまちづくりに時間をかけたいと考えています。具体的には今、コミュニティアーカイブの一環として「津別8ミリフィルムプロジェクト」をみんなで進めています。一番人口が多かった1960年頃の津別町はどんな町だったのか？そんな思いを馳せながら、地域映像づくりをみんなで楽しみたいです。津別町の良さでもある多世代交流の新たなきっかけになればと考えています。

※津別町では2015年から「まちなか再生基本計画」を開始していました。中心市街地の公共施設や商業施設の改装やコミュニティ施設の整備など、ハードとソフトの両面から新たなまちづくりを進めていました。そのソフト面の施策の一つが「道東エリアリノベーションプロジェクトin津別」です。

(2025年3月取材)

インタビュー後記

都丸さんに初めてお会いしたのは2024年の秋、中頓別町の若者たちと視察で訪問した時です。ナンモナンモの説明の後、移住者が営業しているcafe「津別珈琲」に行って、そのあと、地域おこし協力隊同期で、道東テレビ主宰の「JIMBA」の立川彰さんにも話聞いてねとアドバイスいただきました。そして、一緒にお店に行き私たちを紹介してくださいました。初めて津別町を訪れた人にとって、都丸さんのようなちょっぴりお節介なお姉さんの存在が大きいと感激しました。

かとう けいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表